

乙 企 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

乙部町長 寺 島 光一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付けで照会のありました、標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道乙部町

「道路関連公益法人や道路整備関係の特別会計関連支出の無駄を徹底的に排除する」とともに、「必要と判断される道路は着実に整備する」、「道路の中期計画は5年とし、最新の需要推計などを基礎に、新たな整備計画を策定する」とされたところであり、現在、国土交通省では、新たな交通需要推計や事業評価手法などの作業を進めているところであるので、その結果を期待したい。

■地域における道路整備の必要性

地域経済の成長や環境の保全、災害対応などの上から、主要な道路整備や道路の質の向上が緊急に必要な状況にあることは、依然として変わらないことである。

特に、檜山管内の基幹産業である第1次産業の出荷物は、函館を経由して道内外へ輸送されており、安全で効率的な交通体系の確立には、アクセス道路の整備・更新は不可欠なものである。

また、地域の住民にとって自動車は必需品となっており、道路の質の向上も緊急な課題であるとともに冬期間での安全性の確保など、北海道独自の地域性による対応も必要となっている。

新たな中期計画の検討において、現状では不採算を批判される区間の採択についても、「地域社会における産業との関わり合い」や「地域住民の視点に立った評価」などの地域特性や社会的有用性の視点を重要視することとしているので、今後の新たな道路整備に期待するものである。

■安定的な財源の確保

現在の道路整備のあり方、また道路特定財源や自動車課税の体系も論議途中で、最終的な結論にいたっていない。

しかし、道路の整備や更新は長期の計画に基づかねばならず、そのために安定的な財源確保が不可欠であることは言うまでもない。

また、合わせて安全な交通体系を確保するためには、維持管理経費の財源確保も非常に重要である。

一般財源化されれば、道路への予算配分は、非常に不安定で計画的な整備や更新が危ぶまれ、また、維持管理経費の削減は、国民生活に身近な道路としての意義や地域産業への貢献度においても安定性を欠くことになる。

道路特定財源制度は、資金供給の安定性を制度的に担保するものであったはずであり、現段階における道路整備や更新の必要性に対応して制度的担保を確保することが依然として不可欠である。

■採択基準の見直し

便益効果は、地方において、クリアできる数値にならない事例が多い。このため、地方道路の整備事業の採択ができないという現状がある。社会として、今後どのような道路整備が必要かの検証がまず行われるべきであり、新たな中期計画では、地域との関係を明確にし、他の事業との連携を高めるなどの視点を重視することとしており、今後は便益対費用等の経済性の評価とともに、地域を重視した観点から人口の維持や地域住民の視点にたった評価の基準も必要ではないか。

人口が少なく、便益がほとんど無いところでも道路の整備が必要な場所は、存在すると考えられる。道路整備事業は、産業に関係するような地域経済に寄与するだけの事業だと位置づけるのではなく、特に過疎地域においては、生活に密接するような事業も必要であり、緊急搬送や都市部への病院への通院などの生命の安全、暮らし、地域の取り組みをきちんと評価し、便益効果による判断基準についても内容の再検討や生活者目線による判断基準を明確にする必要があると考えている。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

北海道乙部町

現状

道路は、豊かな町民生活を支える基盤であるとともに、地域の均衡ある発展や産業の振興に不可欠なものであり、乙部町においては、国道２２９号線と道道３路線により幹線道路が構成され、国及び道において管理されている。

地域の経済的なつながりは、函館を経由して行われるものがほとんどで、函館までの物流を支える国道２２７号線は、非常に重要な国道である。

また、町民の仕事や観光などのライフスタイルは、函館市周辺地域を利用したライフスタイルが多くなっており、さらには本州へのアクセスポイントとなる函館ＪＲ駅や函館空港などの利用頻度も高くなっており、函館へのアクセス道路は、乙部町にとっては、非常に重要な意味を持っている。

乙部町を南北に通過する国道２２９号線は、重要な幹線道路であるが、この国道に代わって町内を南北に通過できる代替道路は、現段階では整備されていない。

すべての区間で歩道が必要ではないにせよ、歩行スペースの確保や歩道整備は少ない。

道路維持管理など以前に比べて、経費削減されており、町民の身近な生活道路としての利便性にも影響が出ている。

課題

函館圏への安全なアクセス体制の確保

安全で円滑な交通体制の整備

冬季間における除排雪体制の整備

人口も減少し、少子高齢化に際しては、定住人口を確保するとともに、それ以上に交流人口の増加を図る。

直営バスもなく、病院との通院等には自ら運転が必要であるが、冬季間は、老人や女性・子供にとっては通院そのものが危険を伴う現状にある。

災害時などに対処するため、代替道路整備が、必要となる。

また、日本海側の災害だけでなく、太平洋側の災害時における代替道路としても有意義な道路として位置づける。

歩行スペースの確保や段差の解消など、高齢者や障害者などへ配慮した歩道の確保に努める。

	除草や清掃などの維持管理業務について、地域との合意に基づく業務の推進に努める。
--	---

②－２ 地域の目指すべき将来像

北海道乙部町

乙部町の幹線道路は、国道２２９号線と道道３路線により構成され、国及び道において管理されている。

国道２２９号線は、日本海側の主要な道路として、乙部町の日本海沿線に南北に伸びているが、渡島半島の主要交通は、噴火湾沿いに配備されているのが現状である。

しかし、駒ヶ岳の火山活動は依然活動を続けており、また、集中豪雨により国道５号線が通行止めになった経験もあることから、万一の場合に備えて、日本海側の国道等の路線確保が、重要であると考えている。そこで、国道２２９号線を日本海側の主要な路線と位置づけ、危険箇所などの解消に向けた改良を継続しなければならない。

新函館駅は、現在の函館本線渡島大野駅の位置に建設が予定されているが、現状では国道５号線にも函館新道にもアクセス道路が無く、新函館駅完成に合わせ、新函館駅と周辺を結ぶ高速交通ネットワークの整備が不可欠である。

また、新幹線開通の経済的効果を引き上げるためには、函館市の商店街や観光地、函館空港などへのアクセスはもとより、道南圏全域の経済効果を期待するためには、道南圏全域への結びつけを実現するための道路整備や円滑なアクセスの確立が非常に重要である。

このようなことから、檜山管内地域にとっては、新函館駅から檜山南部地域に結ばれる国道２２７号線は、非常に重要な路線に位置づけられる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道乙部町

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
特になし			